

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第6部門第1区分

【発行日】平成22年10月14日(2010.10.14)

【公開番号】特開2009-174863(P2009-174863A)

【公開日】平成21年8月6日(2009.8.6)

【年通号数】公開・登録公報2009-031

【出願番号】特願2008-10593(P2008-10593)

【国際特許分類】

G 01 D 5/244 (2006.01)

【F I】

G 01 D 5/244 J

【手続補正書】

【提出日】平成22年8月30日(2010.8.30)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

非接触型のトランスデューサであって、

測定量を所定形式の出力信号に変換する変換素子と、

前記トランスデューサの入出力関係が所望の形状となるように、前記変換素子の出力信号を補正する出力補正部と、

を備え、

前記出力補正部は、

前記変換素子の出力信号のレベルを入力とし、前記出力信号の補正に使用される補正值を出力とするルックアップテーブルと、

前記ルックアップテーブルを参照し、前記補正值を用いて前記変換素子の出力信号の補正を実行する補正実行部と、

を含む、トランスデューサ。

【請求項2】

請求項1記載のトランスデューサであって、

前記補正值は、前記変換素子の出力信号のレベルと補正後の出力信号のレベルとの間の差分である、トランスデューサ。

【請求項3】

請求項1又は2に記載のトランスデューサであって、

前記出力補正部は、前記トランスデューサの入出力関係が直線となるように補正を実行する、トランスデューサ。

【請求項4】

請求項1ないし3のいずれかに記載のトランスデューサであって、

前記変換素子は、前記トランスデューサからの相対的な位置関係が可変な永久磁石に起因する磁場を前記測定量として検出する素子であり、

前記トランスデューサは、さらに、

前記永久磁石の温度を維持するためのヒータを備える、トランスデューサ。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0006

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0006】

本発明は、上述の課題の少なくとも一部を解決するためになされたものであり、以下の形態又は適用例として実現することが可能である。

本発明の一形態は、非接触型のトランスデューサであって、

測定量を所定形式の出力信号に変換する変換素子と、

前記トランスデューサの入出力関係が所望の形状となるように、前記変換素子の出力信号を補正する出力補正部と、

を備え、

前記出力補正部は、

前記変換素子の出力信号のレベルを入力とし、前記出力信号の補正に使用される補正值を出力とするルックアップテーブルと、

前記ルックアップテーブルを参照し、前記補正值を用いて前記変換素子の出力信号の補正を実行する補正実行部と、

を含む。

このトランスデューサは、トランスデューサの入出力関係が所望の形状となるように補正を行う出力補正部を備えているので、その設置状態に拘わらず望ましい入出力関係を得ることが可能である。また、ルックアップテーブルを利用すれば、トランスデューサの入出力関係を所望の関係に容易に補正することができる。